

2016年度 つばさ総合高等学校

環境活動報告

2017年5月
ISO推進委員会

★8つの目標

1. 環境教育・活動の実施

目標を前年度までの「(環境教育のために必要な)全教職員対象の教育訓練を年1回以上行う」から、「5つ以上の教科・特別活動での環境教育の実施」にあらためました。保健体育・商業などの授業や委員会活動ほか計6つで、環境保全に役立つ知識を学んだり実践に取り組んだりしました。

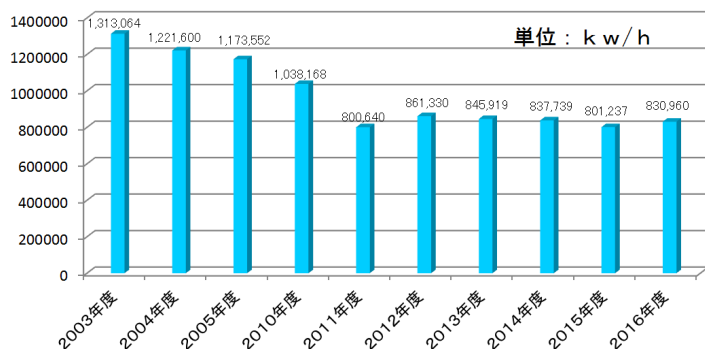
2. 環境関連の講演会の実施

目標は年1回以上。昨年度は「人間の『生きやすさ』も環境」という考えから、「どんな人も生きやすい社会を」と題した全校講演を行いました。講師は公益社団法人日本てんかん協会の方で、病気や障害のある人の気持ちや、ともに気持ちよく過ごしていくための知識などを教わりました。



3. 省エネルギーの推進(電力使用量の抑制)

過去の一定期間(昨年度は2012~13年度)の平均の一定量を維持する目標を立てて取り組んでいます。



昨年度も水準を維持=目標を達成しましたが、教育活動などに支障はなく、校内の生活環境は保たれています。私たちは電力の過不足にかかわらず、こまめなスイッチオフや衣食の工夫を呼びかけて無駄遣いを省く活動を、今後も地道に続けていきます。

4. 環境に関して他校と交流

目標は年一回。昨年度も「高校生環境サミット」【後述】を、11月23日に実施。テーマに沿った基調講演と意見交換を軸に、高校・大学・企業・NPOによるパネル展示、高校生による実践発表が行われます。世代を問わず、また見に来るだけでも気軽にご来場いただける行事です。



詳しくは、3ページ目にある「高校生環境サミット」の記事をご覧ください。

5. 環境関連情報の発信

本校WEBサイトにブログを設置しています。昨年度も生徒の活動や環境サミットを中心に、毎月2回以上更新しました(目標は月1回以上)。

活動の様子などをWEBからもぜひご覧下さい。



6. 環境関連施設 or 学校の見学・訪問

年1回以上が目標。昨年度は2回行い、合計約50名の生徒・教職員・保護者が参加。1回目は臨海部にあるリサイクル産業の拠点「スーパーエコタウン」、2回目は上野動物園・すみだ水族館の舞台裏の見学でした。

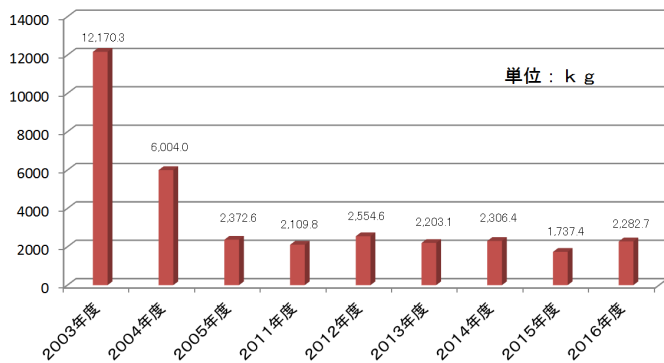


7. ゴミの再資源化と減量

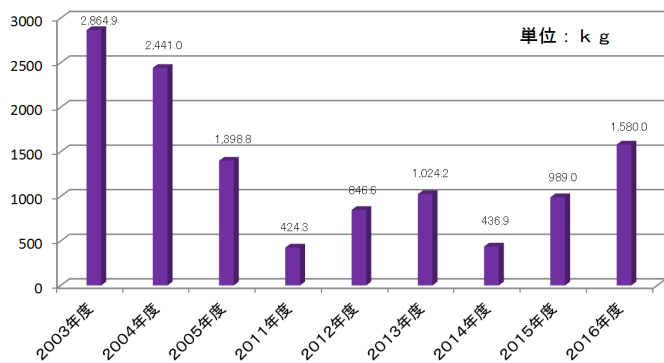


後述しますが、本校の教室にゴミ箱はありません。資源をリサイクルに出して廃棄物を減らすため、ゴミは校内に6つある「ステーション」に分別して捨てます。最終的にゴミ倉庫に集まったゴミ・資源を週一回、さらに分別し直します（上写真）。

↓可燃ゴミ(一般廃棄物)の排出量のデータ



↓不燃ゴミ(産業廃棄物)の排出量のデータ



目標は「過去一定期間（昨年度は2008～10年度）の平均値を維持」。一昨年度までは順調でしたが、昨年度の途中から紙・プラスチック資源のリサイクル環境が悪化したため、不燃ゴミを中心に量が増えてしまいました。元通りに資源を回収してもらう方法を模索するとともに、リユース・リデュースの普及策を見つけるべきだと考えています。

8. アンケートの実施

目標にしたがって、年度に1回、全校生徒の意識調査を実施して集計しています。昨年は12月に実施。本校が行っている活動については評価が高い一方、自身の意識や活動については控えめな評価をしている、などの傾向が分かりました。

★生徒の活動

9. ISO委員会

2006年度から生徒会の組織になりました（それまでは有志による組織）。朝の呼びかけ、昼の分別指導、ゴミの再分別・計量、環境サミットの企画・運営などを行っています。

また、役員は「ISO推進責任者」になり、教職員・保護者とともに、学校の環境活動を企画・点検する「ISO推進委員会」のメンバーを務めています。

10. 今月の目標と「つばさ環境の日」

毎月1回「つばさ環境の日」を定め、朝の登校時間にISO委員総出で「今月の目標」を呼びかけます（下写真左）。

目標を書いた看板は、そのまま次の「環境の日」まで生徒玄関に掲げられます（同右）。

「今月の目標」は毎月の委員会で決めますが、家庭や外出でも実践できる内容にして、取り組みを校内だけにとどめないよう心がけています。



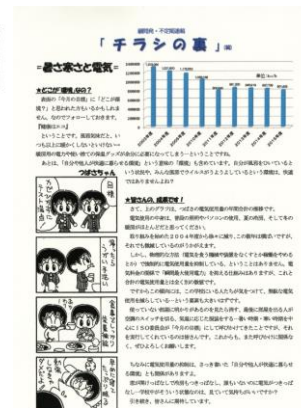
＝最近の目標から＝

『袋いりません』の一言を』『最後の人が電気を消そう』『マイボトルで涼しい夏を』『暖房の設定温度を下げよう』

11. 広報紙「USO800」発行

「今月の目標」に沿って、目標のための具体的な手立てや意義・効果などを紹介する広報紙です。ISO委員の生徒が執筆・編集し、毎月全校に配られます。また公式ブログ上にも掲載し、地域などでのイベント参加時にも配布しています。

「USO800」という題名には、「環境について何が正しいのか、実は誰にも正解は分からない」…そんな意味を込めています。もちろん意図的に“うそ”は書きませんが（笑）。



12. ゴミステーション・ゴミ倉庫で

前述の通り、つばさ総合高校の各教室にはゴミ箱がありません。分別を徹底して資源を回収するため、ゴミは校内6カ所にあるステーションに捨てることになっています。

放課後の回収では、単に集めるだけではなく分別の手直しもします。全生徒が一度は経験するように当番を組んでいます。



さらに「環境週間」として、毎月のうち一定期間、ISO委員が交替で昼休みの分別指導を行っています。

なお、前記の「週一回、さらに分別し直す」作業もISO委員が交替で行っています。

13. 研究活動と交流・発表への参加

ISO委員会の役員・有志で、研究活動を行っています。最近のテーマは「カーボンオフセット」。昨年度も本校の環境サミット（後述）で出たCO2をオフセットしつつ、この仕組みを普及させる方法を研究・実践しました。「イオンエコワングランプリ」で文部科学大臣賞に輝くなど、生徒の研究・実践は高い評価を受けています。

また、「高校生自然環境サミット」「高校生環境フォーラム」などに参加して他校と交流・学習をしたり、地元の行事や全国的なイベントで取り組みを発表したりしました。



14. 高校生環境サミット

前述した「他校との交流行事」。どなたでも出展・来場できる「環境についての学習・交流イベント」です。教職員や保護者も手を貸しますが、企画や当日の進行は生徒中心で行います。

13回目の前回は16年11月23日（祝）に開催。高校・大学・企業・地域などから約200名が集まりました。

今回にテーマは「川と生命（いのち）」。

開会行事の後、今回は星槎大学副学長・鬼頭秀一先生に自然環境と人間とのかかわりについての講演をいただき、会場全体で意見交換。続いて主催の生徒たちから、前回のこの行事で出たCO2を「クレジット」を購入してオフセットすることが発表され、購入先の南アルプス市関連の団体の方にご登壇いただいて「購入式」を行いました。

午後はまず、高校生や大学生、企業、NPOによる展示・体験プログラムを自由に訪問できる「パネル展示」。今回は22団体が参加し、一般来場者を含む多くの方が各団体の取り組みを興味深く見たり触れたりしていました。そして最後の「高校生の実践発表」では、3校の実践・研究に対して盛んに質疑が出されました。今回も、世代や立場を超えて学び合える一日でした。

原則として例年11月23日に行います。次回は皆さんも、ぜひお越しください！

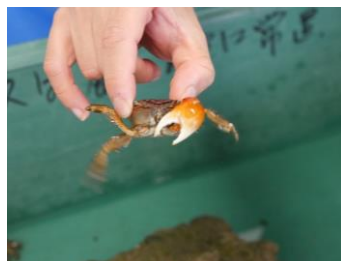
↓クレジット購入式

↓基調講演と、意見交換での発言風景（全体会場「つばさホール」にて）↓

↓高校生の実践発表



↓パネル展示・体験プログラムの様子（ラウンジとホームルーム教室を使った特設会場にて）



★その他の「環境のために」

15. 「環境管理項目」

学校にも以下のような、環境関連の法規により管理の方法が定められている施設や物品があります。それらの管理が適正かどうかを推進委員会で計画的にチェックしています。環境に悪影響を与えないよう適切に施設を管理することも、立派な環境保全活動です。

- 化学薬品、油庫、器具庫 (PCB)、ボイラーの管理
- 法的その他の要求事項の確認
- 騒音に対する苦情の有無 ●騒音計測機器の校正

また、前記「8つの目標」以外で環境負荷低減のために必要と思われる事柄も、環境管理項目またはそれに準じる形で監視をしています。

- コピー用紙の使用量
- 上水道・ガスの使用量

16. 省エネルギーのために

家庭での省エネ対策

上記の「USO800」や毎月の「今月の目標」は、校内の取り組みだけを対象にしているわけではありません。

夏冬が中心になりますが、家庭での冷暖房の使い方、シャワーやガス器具などの使用節減といった「家でできること」も呼びかけの対象です。

照明・冷暖房の運用の取り決め

学校全体で話し合っています。

とはいえ、東京都も自らの「省エネルギー」「CO2 排出量削減」を徐々に強める流れになってきています。電気やガスの使用量を節減する方向で運用は進んでいくでしょう。震災・原発事故の反省を踏まえても、そうなるべきだと考えています。

17. ボランティア活動

★地域の資源回収への協力…リサイクル資源のうち、古紙は地元町内会へ寄付します【下写真左】

★ペットボトルキャップ回収【下写真右…後述】



出張所にキャップをお持ちの皆様
お手数ですが、なるべくご都合をつけて、回収日
にこちらへお持ち下さい。

つばさ総合高校の
ペットボトル
キャップ
回収

少量の回収日「実務部回収してありません」
毎月 金日(木) 8:30-16:00
つばさ総合高校 実務部 (南大崎は実務室隣接)

★回収するキャップは、PET製のものに限ります。★

回収するキャップは、PET製のものに限ります。★

回収するキャップは、PET製のものに限ります。★

回収するキャップは、PET製のものに限ります。★

18. ゴミの削減のために

ペットボトルキャップ回収

学校で飲まれたものから出るキャップの他、各家庭のもの、さらに区の出張所と協力して地域対象の回収もしています。

集まったキャップについては、「エコキャップ推進協会」が仲介する業者さんに集荷に来てもらっています。約5年半で1,115,695 個を引き渡しました(焼却の場合と比べて CO2 排出量を 8,587kg 削減)。

キャップは建材・筆記具などにリサイクルされます。その収益がよく言われるようにワクチンの購入資金となります。

エコキャップ
受領書

2012年2月2日
学校 東京都立 つばさ総合高等学校

キャップの受領証→

出庫前に異物をチェック

つばさ総合高等学校(東京都立)

校 名 東京都立 つばさ総合高等学校
〒114-8533 東京都大田区本羽田3-11-5
FAX 03-5737-0154

今受領前数: 56,000 個
累計個数: 694,280 個
ワクチン: 867.8 人分

受取日 数量 価額約 備考
2012/01/31 140 Kg 56,000 個

合 計 56,000 個

1kgを400個として計算しています。800個でのワクチン1人分が個人です。
1kg(400個)が集積されるとは19kgのCO2が削減されます。

ですが、もちろんペットボトルはなるべく買わずに、お茶や水はご家庭からマイボトルなどで持ってくる方が環境的にはよいと考えています。「もしペットボトルで飲んでしまったら、キャップは回収へ」という位置づけの回収です。

グラウンドシューズのリユース

多くの卒業生が置いていくグラウンド用の靴。以前は、NP O団体を通じて開発途上国へ寄付していました。

ですが、本来は卒業生たち自身が持ち帰るべきものですし、本人が運動靴として使い続けるのが最も効率のいいリユースでもあります。

そこで、現在は各自が持ち帰るようにしています。昨年度も卒業前から持ち帰りを呼びかけ、ほぼ実現しました。

19. 新入生・転入教職員への教育

新入生は入学後すぐに、つばさの環境活動について推進委員会所属の教職員から教育を受けます。新任・転入の教職員についても、着任後すぐに本校の環境活動とそのシステムについて教育を受けます。これらの教育訓練を、本校はISO14001の枠組みの中で自らに義務づけています。

東京都立つばさ総合高等学校 ISO 推進委員会

〒144-8533 東京都大田区本羽田 3-11-5
電話 03(5737)0151 FAX 03(5737)0154
<http://www.tsubasa-h.metro.tokyo.jp/>
e-mail: tsubasa@tsubasa-h.metro.tokyo.jp